

平和がいちばん

2014年7月15日
第85号

平和で豊かな枚方を
市民みんなでつくる会



「会」共同代表と手塚議員・松田久子(6・29 市民会館)

来春の市議選に候補者二人を立てる準備を開始します

来春の市会議員選挙に「市民の会」は二人の候補者を立てて闘う準備を始めました。

ここ数カ月、“美術館”建設を巡って市政と市議会が抱える問題が露わになってきました。市で初めての美術館が、わずか10カ月の市役所内部の議論と議会でのやり取りで、香里ヶ丘地域の歴史も中央公園の景観も顧みられることなく決定されました。市が積み上げてきた文化施策を一変させる内容であり、財政問題は先送りされたままであり、施設の管理形態を大激変させてしまう決定内容です。この間の経過を知らされず結果だけ提示された市民は、市長と議会の体質に疑問を抱きました。なぜ市民の意見を聞かないのか、それ以前になぜ市民に知らせないのか、そして多くの疑問をつぶやきながら建設に賛成した議員は市の説明にどう「納得」したのか、また賛成した議員は市民にどれだけ説明し説得したのか。さらには「会派」の傘に隠れて自分の意見を表明しない議員もいます。これらすべてが免罪されたまま進むこの美術館建設は、今後いったい誰が責任を取るのでしょうか？

この間の経過は「市民にすべて知らせ、議論を促し、そして市の進むべき方向を決める」という自治体のルールが全く無視されたことを示しています。これが現在の枚方市と市議会の現状です。

前回の選挙で「会」推薦の手塚たかひろ議員が議席を得てこの三年間、議会と市民とを結んで運動を広げ深めてきました。手塚議員は議会での質問や市長・理事者との折衝で問題点を洗い出し、市民にたくさんの情報を提供しました。その情報をもとに議論しまとめた市民の意見を議員が議会と市役所に届けました。市民は市長への要請行動を重ねると同時に、議会への請願や陳情を繰り返して行いました。それが議会での活発な議論を促進したと自負しています。この動きを強めるためにも、市民の立場に立ちきる議員を増やしていく必要があります。常に市民の意見を議会に届け、すべての情報を市民に届ける、この基本姿勢を堅持する議員が増えなくてはまたぞろ同じ轍を踏み、市民無視の行政がまかり通ることになります。「市政の主人公は市民」の大原則に立ちきる議員を増やして、市政と市議会の改革を進めましょう。

こんにちは 平和が好き 人が好き 枚方が好き 松田 久子です



1957年滋賀県彦根市生
滋賀大教育学部卒
夫・子二人の四大家族で
西田宮に住んでいます

松田久子さんは、枚方で生活を始めて30年。枚方市内の障がい児施設が最初の勤務先であり、その後、長尾などの介護職場で働き、現在もケアマネジャーの忙しい日々を過ごしている。

そんな彼女へのインタビューを通して、現在の社会や枚方市を考えます。第1回目は「集団的自衛権行使」をテーマに聞きました。

Q. 子どものころ、両親や大人から戦争の話聞いたことがありますか？

両親は戦争が終わった時、それぞれ18、16歳で、青春時代が戦前戦後にまたがっていた世代です。亡き母親が、空襲警報の怖さや配給生活の不自由さを子どもの私に何回も何回も話していました。また兵役経験があり召集先で敗戦を迎えた父親は、戦争のことをあまり語りませんでしたが、

昭和天皇がテレビに出てくると何故か悪口ばかり言っていました。戦争に対する明確な批判の声は聞こえなかったけれど、楽しいはずの青春時代が、戦争のために台無しにされてしまった怒りが、心の中にあっただと思います。

Q. 今の政権についてどのように思われますか？

戦後69年が経とうとしているこの時期に、ここまで日本という国の方向性が変えられてしまっただけでよいのかと憤りを感じています。大きな犠牲を払って手に入れることができた平和な日本、日本国憲法に象徴される徹底した平和主義。社会科の授業で習った『あたらしい憲法のはなし』の一節を今も覚えています。少し引用しますが、「…日本の國が、けっして二度と戦争をしないように、二つのことをきめました。その一つは、兵隊も軍艦も飛行機も、およそ戦争をするためのものは、いっさいもたないということです。…しかしみなさんは、けっして心ぼそく思うことはありません。日本は正しいことを、ほかの國よりさきに行

ったのです。世の中に、正しいことぐらい強いものはありません。もう一つは、よその國と争いごとがおこったとき、けっして戦争によって、相手をまかして、じぶんのいいぶんをとおそうとしないうということを決めたのです…そしてよその國となかよくして、世界中の國が、よい友だちになってくれるようにすれば、日本の國は、さかえてゆけるのです…」子ども心にとっても嬉しい気持ちになりました。今を生きる子どもたちは、きっと今の日本の動きに大きな恐怖心や不安を感じていると思います。今の為政者にこそ、上記の一節をしっかり肝に銘じて欲しいと思います。

Q. 介護の仕事と『平和』は結びついていると考えられていますか？

福祉や介護の仕事は、生活に直結した身近な分野だけに公的な援助が削減されれば影響が大きく、今でも、働く職員の賃金は責任の大きさにくらべ低く、正規職員でも結婚して子育てできるだけの余裕がありません。非正規職員となれば、言

わずもがなです。平和がおびやかされれば、ますます軍備や兵器が増強され、軍事費にかかるお金が増えていきます。その陰で犠牲になるのは、いつも教育や福祉や介護の分野です。これ以上、切り詰められたらたまったものではありません。

Q. 今、どのように行動しようと考えられていますか？

全国の200を超える地方議会で「集団的自衛権行使容認を認めない」意見書が採択されています。枚方市議会も「集団的自衛権行使を認め

ない」意見書を採択し、平和・市民自治都市として意思表示してほしいとの声を上げたいと思います。

ありがとうございました <インタビュー：おた幸世>

手塚たかひろ 議員日誌

美術館建設の
問題点の追及
を続けています



議員報酬半減と
政務活動費受け取り拒否
を続けています

- 6月15日 市主催の美術館寄贈の受け入れ市民説明会 定員120人の会場がほぼ満杯。市民の関心は強い。時間は約1時間30分、多くの市民から疑問や質問が出た。時間切れで発言できなかった多くの市民がいるにもかかわらず、市民説明会は打ち切る方針。事前に地元説明を行わなかった事とあわせて、市民軽視の姿勢を正そう。
- 6月24日 市議会で一般質問 26日一般会計補正予算案に反対討論。（詳細は議会報告をご参照ください）
- 6月29日 「枚方市図書館行政を考える会」主催の学習会 講師の巽照子さんは元東近江市図書館長。講演のテーマは「まちに生きる図書館—生活にいきづく図書館をもとめて」。図書館は本を貸し出すだけでなく、地域の生活と密着したまちづくりの情報提供や本を読むことで人と人とを結びつける役割を持つ。直営でなければできないことが経験を交えて語られた。主催者から、「図書館は人が育つ、人の感性を育む場」「目先の利益で、民間・指定管理者導入をしてはならない」「市民・利用者の声を十分に反映させる図書館協議会の設置」「市民と職員の協働を進める」ことが必要とまとめられた。
- 7月1日 安倍内閣の集団的自衛権行使容認閣議決定
夕方、緊急抗議行動を枚方市駅前で行う。10名の参加。自衛隊が海外で戦争できる国、「人を殺し殺される国」に変えられる。国のあり方を根本から変えるクーデターともいえる暴挙。参加者のリレートークは安倍の暴挙への怒りであふれた。しかし閣議決定で終わりではない。自衛隊法改正など、戦争する国への法整備を阻止しよう。闘いはこれからだ。
- 7月6日 無防備地域宣言運動全国ネットワーク
第11回総会 首相官邸前での抗議行動の広がり、「集団的自衛権行使容認への反対・慎重審議を求める意見書は200をこえる地方議会で可決されている」ことや三重県松阪市長が「閣議決定が国民の平和的生存権を保障する憲法に違反するとして、違憲確認を求める提訴する方針を表明した」ことなど、全国での安倍内閣への批判が高まっていることが報告された。澤野義一大阪経済法科大学教授は記念講演で、「9条は交戦権を放棄しているので、第三国の武力紛争に加担することは禁止している」と強調された。集団的自衛権のみならず、個別的自衛権での武力行使も9条は禁止していることを改めて確認したい。
- 7月7日 老健施設に入所している母が久振りに自宅に帰ってきた。母の91歳の誕生祝いに家族全員での夕食。家のベッドで就寝。何の変哲もない風景だが、今は新鮮。高齢者の尊厳が保障されるため、特養・老健・デイサービス・在宅介護すべてにおいて当事者にあったサービスが自由に利用できるよう、施設の拡充やサービスの充実が望まれる。
- 7月8日 「市立ひらかた病院」の見学会に参加 病院の建物は5月30日に竣工、9月24日に診療開始の予定。まだ診療器具類は入っていないが、病室の窓は大きく明るい。採算を重視しすぎた市民不在の診療でなく、市民に寄り添った丁寧な診察をする新病院になって欲しい。
- 6月25日 6月分議員報酬から226,280円を、7月7日 6月分期末一時金から600,000円を大阪法務局に供託。



投稿

「枚方の図書館の未来を考える集い」に参加して 森川 真

図書館の民営化を巡る問題は、結局「自治」を巡る問題である…市民会館で行われた『図書館の未来を考える集い』に参加した帰り道、バスに揺られながらそんな事を思いました。私があの福島第一原発事故の後に知った大事な事の一つに「共同体自治」という考え方があります。社会学者・宮台真司氏が著書で詳しく述べておられた事ですが、氏によれば今日本が抱えている問題のほとんどに、背景として「日本社会の空洞化」が存在すると言います。集団的自衛権を一定数の人々が支持する背景には、空洞化した社会が存在し、誰もがウソだと言いながら原発が容認されてしまう背景にも、やはり空洞化した社会が存在すると。ヘイトスピーチ問題・少子化問題・生活保護バッシングなどの様々な現象に対し、「空洞化」をキーワードに考えると色々な事がとても上手く説明出来るようです。

「社会の空洞化」は日本に限らず、グローバル化の流れの中で先進国に共通して起きている現象だそうです。空洞化した社会では人々が常に不安な状態に置かれるため体制依存的になり、またポピュリズムに対してもたやすく動

員されてしまうといひます。このような空洞化した社会に対する処方箋として宮台氏が期待するのが、「共同体自治」の考え方です。しかし、では「自治」とはどんなものなのでしょう？

今回、講師の巽照子先生が図書館の実践を通じて語られた事は、私にとって「自治」を考える上で重要な鍵のように思えました。今まで理屈で考えていた「自治」というイメージに、血肉が与えられたかのような感覚を覚えたのです。地域の風土や歴史と共に在り、地域の人と共に創り上げ、地域の為に存在する図書館。こういった営みの中に「自治」の本質があると思いました。武雄市の民営図書館にみられるような利便性は確かに素晴らしいものですが、身を任せていると私たちは風土も歴史も人との繋がりも、自ら捨ててしまう事になる気がします。民営化が悪いのではなく、失うものの大きさに気づかせない社会の空洞化にこそ目を向けなければならないと思います。10年続くかどうかとも怪しい快適性を、故郷の山河が100年先も変わらずに在る事よりも優先する程、私たちは愚かではないと信じたいです。

短信

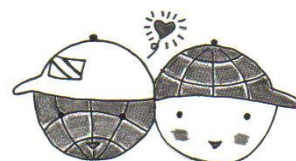
6月14日、「放射能健診実現！西日本集会」に参加。福島県双葉町の前町長で署名運動全国実行委員長の井戸川克隆さんのお話を聞きました。井戸川さんは自分の経験も踏まえて「避難は過去・現在・未来を崩壊させ、希望・将来・夢をなくす」「なぜ電力会社に避難させられるのか。事故がなければ避難計画など無用。先住している住民より原発を避難させろ」と訴えられた。(M)



井戸川克隆さん(中央)と松田久子(左)と手塚たかひろ(浪速区民ホール)

平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会

共同代表 松本 健男 (弁護士)
家高 憲三 (元教育長)
黒田 薫 (平和都市枚方を考える市民の会)
鈴木めぐみ (親子のリズム遊び講師)
おおた幸世 (枚方市平和無防備条例を実現する会)
事務局長 手塚 隆寛 (枚方市会議員)



「会」のシンボルマーク
塔本賢一さん作

〒573-1197
枚方市禁野本町
1-5-15-106
市民の広場“ひこばえ”
TEL&Fax
072-849-1545

毎月の配布を希望される方、または配布を希望されない方はお手数ですがご連絡ください